

まちだ史考会 文化財調査活動のあらまし(2021年度)

石造物・寺院・神社等の幅広文化財並び伝承・説話などの調査も行っています。まとめとして写真集・報告書を作成・発行して公共機関等に寄贈しています。文化財の記録・保護活動の一助として文化的なボランティア活動の一環でもあります。市民大学講座、市制50周年記念市民協働事業の展示会、生涯学習センターまつり等でその成果の一端を写真展示・解説を行っています。文化財調査は、資料・文献による座学のみでなく、寺院・神社・史蹟の現地調査との両輪で成り立つことをモットーに地道だが楽しみと成果は大きい活動です。

1. 石造物(石仏)調査活動

2009年に町田市全域の石仏調査を終了し、その後新規・追加調査を行い改訂版の発刊等含めて20刊余発行しています。

町田市教育委員会は、史考会の調査をベースに市域の悉皆調査を実施して、2019年度に『町田市の石造物』が発刊されました。地道な成果が公的に生かされました。2020年度『相原町の石造物』改訂版7月発行を以てひと区切り出来ました。

今後も金石文として刻文解説、関連文化財の調査も進めます。

2. 町田市域の文化財関連調査活動

寺院・神社などの仏像、絵画、建築様式などの視点から調査活動を進めています。

1) 2020年度 小山地区を中心に文化財調査を進めてきました。

その成果を纏めて本年度『小山広域地区の文化財』を刊行致します。

総合的な小山文化財調査探訪及び相原地区のフォローアップ学習を体験する文化財探訪もコロナ禍の動向を見定めて実施いたします。ご期待下さい。

2) 今年度は小山田・木曾地区を中心に文化財調査活動を進めます。

3. 広域文化財調査探訪

町田市に関係の深い地域(相模國、江戸)を含めた広域的に有形文化財、石造物、地誌の調査を進めています。

1) 花のお江戸シリーズ 両国界隈は、コロナ禍を考慮して22年度に延期する。

当シリーズは例年好評であり、復活を期します。ご期待下さい。

2) 境川流域シリーズ 11回目藤沢宿北部を企画しています。今秋か来年2月頃。

註、湘南台～藤沢宿北の事前調査は適宜行う。

4. 文化財研修 より幅広い知見を求めて

2020年度は県博「相模川流域のみほとけ」横博「横浜のしらぜらるみほとけたち」

①国学院大学博物館 ②鎌倉国宝館他 展示内容を勘案して時期を適宜決めます。

註、コロナ対応は昨年の実績から比較的管理された状態で行われます。

当企画は例年好評で、初心者にも文化財入門に好適です。

以上

陽春の小山地区文化財検証調査探訪

実施日	2021年4月8日(木) 快晴	参加者	10名	文責	まちだ史考会文化財調査 G
概要	<p>テーマ：小山地区の文化財、史蹟、伝承と尾根緑道を訪ねる。</p> <p>小山地区は、近くの田端環状遺跡で代表されるように縄文時代から開けた地域であった。江戸期においては当町田市側と境川対岸の相模原市小山地区に跨る地区が小山の地であった。背後に多摩丘陵を控え、境川流域に位置し恵まれた地形である。東西を現町田街道、南北に旧鎌倉道、大山道、浜街道が交差する地形でした。</p> <p>★コロナ禍を考慮してお寺さんとの懇談・内部拝観は中止。</p>				
コース	<p>町田バスセンター ～ 小山小学校バス停前から出発</p> 				
	見所				
○蒼龍山長泉寺	<p>宗派：曹洞宗 開山：照室景鏡 創建：天正(1573～91)年間。 寺領九石四斗の朱印、 本尊：釈迦木造坐像、長さ一尺余り。</p> <p>本堂：木造瓦葺平屋、間口九間×奥行五間、唐破風向拝を有し、昭和三十五年に新築された。</p> <p>庫裡：元農家を慶応三年(1867)移築したもので木造平屋。</p> <p>地蔵堂・子育地蔵： 慶安の舟形親子地蔵。堂前の一宇一石塔</p> <p>七福神像： 内大黒天(文化十二亥十一月(1815)他</p>				
○施弥山慈眼院福生寺	<p>宗派：真言宗智山派 開山：玄亮法印 開基：天野孫兵衛清彦 寺領十二石二斗の御朱印を領す。</p> <p>由緒：天福元年(1233)七月玄亮法印、鎌倉幕府に正觀世音を祀ることを奏上し、翌文暦元年(1234)北条泰時より年号の一宇を賜り福生寺と称す。慶安二年(1649)から村社札次神社、御嶽神社及び正觀音の別當として寺領十二石二斗の御朱印を領する。</p> <p>★観音堂 本尊：観音菩薩立像 都指定有形文化財</p> <p>★観音堂石段登り口左側に「お茶坊様」(注)と呼ばれてきた無縫塔(卵型)が祠に祀られている。正面：入定沙門智海法師靈位 右側：安永己亥八年十二月二十三日 左側：荒ヶ谷戸観音寺住五十四歳 と刻されている。安永八年には小山から相原地方にかけて「はやり風邪」が流行して、村民は非常に難済した。智海法師は自ら入定して救うために、墓を掘らせ自らは棺に入って鐘を叩きながら往生した。</p> <p>★集団赤痢罹災者供養塔(注) 明治三十年(1897)五月赤痢病が大発生し、96名が亡くなかった。明治三十三年(1900)供養塔が火葬場に建立された。現在は福生寺墓地の一隅に遷座している - 「片所谷戸入口」からほど近い左側。 注：「爽秋の小山探訪報告」(2020年10月27日)添付1、2を参照。</p>				